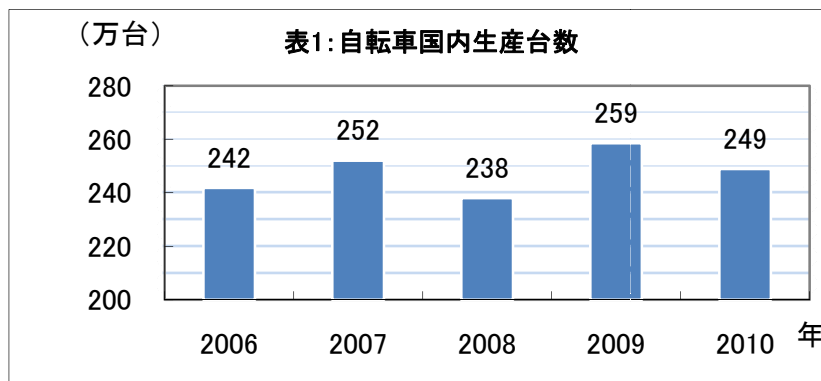


イタリア自転車市況－2010

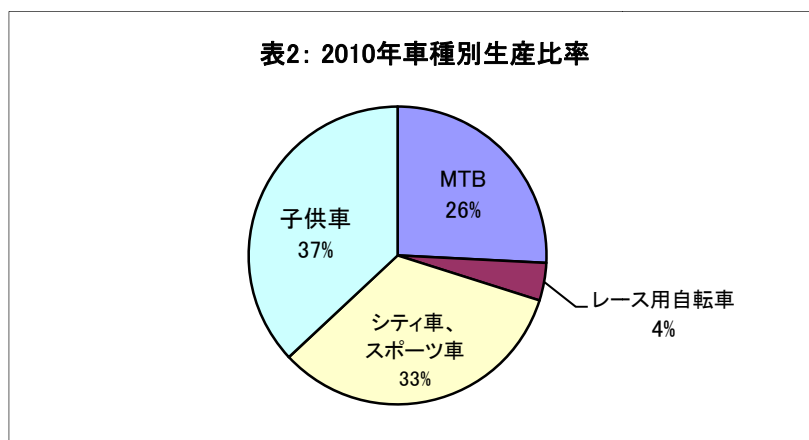
1. 生産

イタリア二輪車工業会(ANCMA)によると、2009年にイタリア政府が2度にわたり実施した自転車購入奨励金により、2009年には復調の兆しを見せたイタリア自転車産業界であったが、2010年にはその効果もすでになく、2010年の国内生産台数は前年比3.7%減の248.9万台と再び減少した。



車種別生産比率では、シティ車とスポーツ車は前年より2ポイント減の33%となり、子供車は2ポイント増の37%と再び最大シェアとなった。なお、レース用自転車(ロードレーサー)4%とMTB26%のシェアは昨年同様であった。

車種別の生産台数では、MTBが前年比3.9%減の64.2万台、ロードレーサーは同比11.3%減の10.2万台、シティ車とスポーツ車は同比8.0%減の82.5万台となり、落ち込みを見せた一方で、子供車は生産台数92万台と前年より2ポイント、1.5万台増加した。なお、子供車には主に輸出向けの車輪径18インチ以下の安価な幼児車が含まれている。

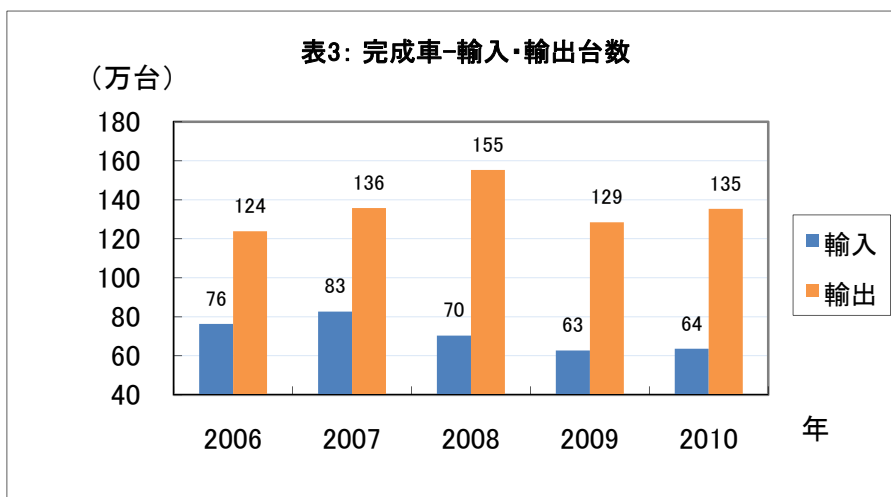


2. 輸出入

2009年に減少に転じた完成車輸出は、2010年は前年比5.4%増の135.4万台となり再び増

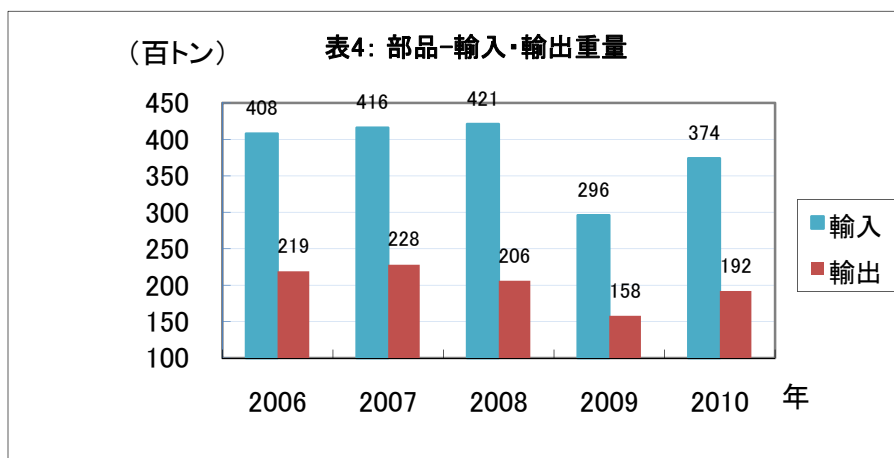
加した。輸出台数や金額は前年より増加に転じたものの、輸出平均単価については、2010年は前年と同額の93ユーロ(10,509円)にとどまった。地域別輸出シェアでは、EU諸国向けが昨年と同じく98%となり、輸出の大半を占めている。

完成車輸入では、2010年は前年比1.4%増の63.6万台となり、2年続いた減少に歯止めがかかった。輸入平均単価も2010年は前年より3割増しの163ユーロ(18,419円)となり、前年の126ユーロ(14,238円)より大幅に上昇した。地域別輸入シェアでは、EU諸国からが30%、その他が70%となり、EU諸国のシェアが前年より12ポイントも減少した。



自転車部品については、2010年は輸出入ともに重量、金額ベース双方で前年増となった。重量ベースでは輸出入共に前年より2割増しとなり、金額ベースでは輸出が前年より1割増、輸入は2割増となり、急激な落ち込みをみせた2009年から回復の兆しを見せた。

地域別輸出では、EU諸国向けが70%、その他の欧州諸国向け15%と併せ、欧州地域向けが8割以上を占める。なお、米国向けも4.2%と僅かに増加した。地域別輸入では、中国だけで68.4%を占め、その他アジア諸国20.3%となり、昨年よりも更にアジア地域からの輸入が増えた。



品目別で見ると、輸出ではサドルが重量ベースでは前年より4割減少したものの、金額ベースでは前年より増加し、全輸出量の2割近くを占める最多輸出品である。他にはフレーム、

フリーホイールは金額ベースで前年より2割超の増加となったが、ギヤランクやディレーラ等は減少した。輸入ではフレームが金額ベースで全輸入額の3割を占める最多輸入品となった。その他、前ホークやリムが前年より重量、金額ベース共に2割前後も増えた一方、ギヤランクやディレーラは重量が増加したが金額ベースでは前年より減少した。

3. 販売

2010年完成車の販売台数は前年比4.4%減の184.5万台に減少し、金額ベースでも前年比9.9%減となった。2009年の販売好調の要因となった自転車購入奨励金の終了により、2010年の販売は減少し、2010年の自転車販売店全業態の小売平均販売価格は260ユーロ(29,380円)となり、前年より20ユーロ(2,260円)下落した。過去4年間、平均販売価格は下落を続けているが、販売の中心は依然として自転車小売店であるとANCMAは述べている。

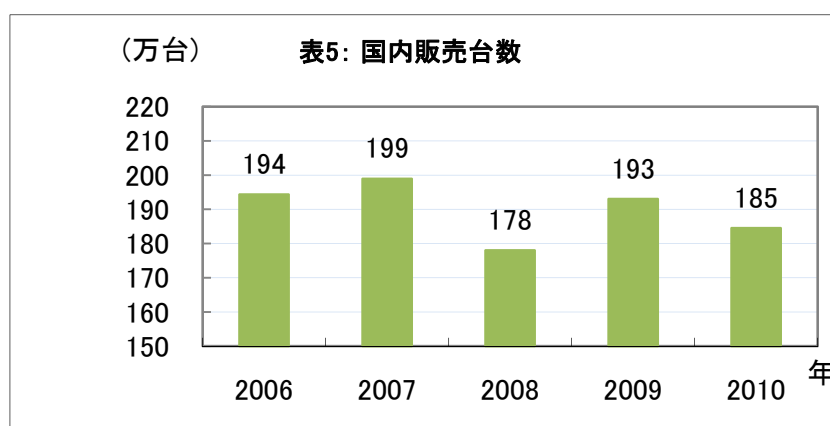


表6: 伊市場平均販売価格 (単位:ユーロ)

年	2006	2007	2008	2009	2010
全業態平均販売価格	310	320	290	280	260

輸出入では堅調な動きを見せた部品、付属品の国内販売について、その売上額は前年より減少に転じた。また、修理の売上金額も、部品、付属品の売上減に伴い減少したが、サイクリング等による人々の自転車利用が増えており、ロードレーサー等のスポーツ車用のサドル、タイヤや付属品などアフターマーケット向け商品の需要は堅調であった。

表7: 伊市場売上金額 (単位:百万ユーロ)

年	2006	2007	2008	2009	2010	前年比
完成車(※EPAC除く)	602	636	516	540	480	88.89%
電動アシスト自転車	11	14	11	15	18	120.00%
部品・アクセサリ	200	190	200	220	200	90.91%
修理	25	25	28	29	26	89.66%
合計	838	865	755	804	724	90.05%

4. 電動アシスト自転車

電動アシスト自転車(EPAC)については、2010年の販売台数は3万台と昨年より1万台も増

加した。しかし、2010年のEPACの平均販売価格は600ユーロ(67,800円)となり、前年より150ユーロ(16,950円)も下がった。イタリアではEPAC販売の主体は依然として安価な輸入車が多く、自国有カブランドを抱え、目下EPACブームのドイツやオランダ等とは状況が違ふ。

しかしながら、従来からレジャーやサイクリング用のスポーツ車人気が根強いイタリア市場においても、EPACの注目は年々高まり販売台数は着実に増えている。上記表7のとおり、EPAC販売金額は2010年売上金額が各項目の中で唯一増加に転じており、今後、EPACは同国産業界にとって一層重要度が増すものとANCMAでは見ている。

表 8: 電動アシスト自転車販売台数及び平均販売価格

年	2006	2007	2008	2009	2010
販売台数(台)	15,000	20,000	16,000	20,000	30,000
平均販売価格(ユーロ)	780	700	700	750	600

5. 今後の見込み

2010年ミラノ二輪車展(EICMA)は自転車部門が直前に取りやめとなり、主催者のANCMAは新たな自転車展示会の場を模索中といわれてきたが、この度、イタリアのメーカーが得意とするロードレーサー等の高級スポーツ車を中心にした展示会として、ミラノ郊外のミラノ見本市会場(ミラノ・ロー・フィエラ)から、市中心部のかつての見本市会場(ミラノ・フィエラ・シティー)に場所を戻すかたちで、7月23~25日の間、ミラノ自転車展(EICA)を開催予定である。ここ数年、イタリア国内ではミラノとパドバで2つの自転車展が競合する状態が続いているが、このEICA展の成否は今後のイタリア自転車市場の動向を占う上で大変注目に値する。

2010年には、自転車購入奨励金制度の効果は統計数値上、もはや見られないが、同制度がサイクリングや日常での自転車利用を人々に促すきっかけとなったことは確かであり、今後もその流れは続き、同国自転車市場の販売にも寄与することが期待されている。

以上

統計出所：ANCMA

(国際業務部)